十夜法要併修慈悲つむぎ法要 次第

# 無言三礼

# 奉請（散華）

# 歎仏偈

# 表白

びにつむぎ

みって、、のにしてさく。

は、もしれをたらんに、の、にして、がにぜんとして、せんに、もしぜずんば、をらじ、とのをして、ににしてしう。まさにるべし、のしからず。のをとなうればずにずることをと。

、において、このにおいてをなすことすれば、のにおいてをなすことするにれたりとのにかれるえにしたがい、のをして、をし、せてにのをぐ。

またの、のとのをじのえをばんとす。よってのつむぎにみにぬかずき、のをくる。

ぎはくは、、、、のをてをくらし、、をしわんことを。

　○年○月○日　　○誉○○ってす

# 導師転座

# 説示

本日の十夜法要は皆さまに「慈悲つむぎ」をお受けいただき、お勤めいたします

この「慈悲つむぎ法要」とは、本尊阿弥陀如来様が私たちをお救いになるのだと誓われた大いなる慈悲のみ心、またその教えを人々に広めた宗祖法然上人の優しさ、慈しみにあやかり、阿弥陀如来からの慈悲の心をつむいで頂く法要です。

本尊阿弥陀如来様は、ありとあらゆる人を「みな大切な人」と受け止め、皆が悲しみ苦しむことなくいつも笑顔でいられるようにするにはどうしたら良いのか、長い長い年月をかけてお考えになりました。その結果、皆が幸せになれる理想的な世界として西方極楽浄土をおつくりになられました。阿弥陀様はご自身のお名前を呼ぶ人、つまり「南無阿弥陀仏」を称える人を、臨終の際には極楽浄土へと迎え摂ってくださいます。

この阿弥陀様の慈悲の心を広く伝えたのが、浄土宗の宗祖である法然上人です。法然上人も多くの人々を救いたいとの大いなる慈悲の心を抱くなか、阿弥陀様のみ教えに出会いました。そして四十三歳の時に一生をかけて念仏往生の教えを広めようと決意して浄土宗をお開きになりました。いまからおよそ八百五十年前のことです。そして、六十六歳の時には浄土宗の奥義を伝える『選択本願念仏集』をお書きになられ、阿弥陀様のみ心を世に広められたのです。

本日この法要にご参加いただいた皆様には、先ずはこれから懴悔をしていただき、聖なる水をおつむに頂いて自身の身と心を清める聖水灌頂をお受けいただきます。さらに本尊の御手からつむがれている五色の糸に触れることにより、阿弥陀様、法然上人の慈悲の心を我がものとして受け止めていただきます。

そして感謝の気持ちを忘れず毎日を笑顔で「明るく」過ごし、我が身を振り返りながら人生を豊かにするための道を「正しく」歩み、思いやりと敬いの心をもって「仲よく」生きること、そのうえで他の人々や社会に対して慈悲の心を向けていただくことを誓っていただきます。そして最後に、阿弥陀様の功徳につつまれるよう授与十念を授かります。

引き続いての十夜法要では、『無量寿経』の「この世において善行を十日間行えば、仏の世界において善行を千年間行うよりもすぐれている」との一文に基づき、念仏を中心としてお勤めします。つまり、「慈悲つむぎ」法要においてお念仏のこころを受け取ったうえで、「十夜法要」において皆さんと共々にお念仏を実践するということになるでしょう。

今日の慈悲つむぎ法要、十夜法要をきっかけに、ありとあらゆる人を「みな大切な人」と思い、広く他の人に慈悲の思いを向ける人生を送れるよう、そして日々の生活がお念仏に包まれるようにいたしましょう。

# 受者懴悔

それでは、これより懴悔をしていただきます。私達は、普段生活をするなかで、知らず知らず過ちを犯してしまったり、人をねたんだり、つい悪口を言ってしまうことがあります。また、自分のすることが絶対と思ってしまうこともあります。そこで、自分自身の愚かな姿を偽りなく省みて、心の迷いより生じたこれまでの過ちをみ仏の前で懺悔していただくことにより、心の汚れを取り除き清らかな心を育んでいただきます。私がこれから懺悔の文句を一句ずつ唱えるので、繰り返してご唱和ください。

（一同合掌）

われよりつくるのもろもろのは◆ 、のによる◆

よりずるところなり◆ われ、、したてまつる◆

# 灌頂洒水（＊洒水器での作法です。水瓶でも構いません。）

次に聖水灌頂を行います。

阿弥陀如来様から賜った聖なるお水をおつむから注いで、大いなる仏の慈悲で身と心を清めます。それではこれから作法をいたします。合掌をお願いします。

（順三）

おつむを下げてください

これはこれ阿弥陀如来の慈悲の水なり。

 南無阿弥陀仏 （灌頂洒水）

（逆一）

# 慈悲つむぎ（内陣に上り五色の糸に触れる。＊会所の設えに応じて）

　これより、内陣に上がり、阿弥陀様からの五色の糸に触れていただきます。阿弥陀様、法然上人の慈悲の心をお受けいただきます。触れた際には南無阿弥陀仏とお称えください。

# 誓約

続いて誓約です。感謝の気持ちを忘れず毎日を笑顔で「明るく」過ごし、我が身を振り返りながら人生を豊かにするための道を「正しく」歩み、思いやりと敬いの心をもって「仲よく」生き、他の人々や社会に対して慈悲の心を向けていただくことを誓っていただきます。

私がこれから皆様に誓いをちますかと尋ねますので、それに続いて「誓います」とお答えください。

、ののみにい、るく、しく、よく、のをむといういを、よりのべまでよくつことをいますか◆

大衆◆ 　誓います◆

# 授与十念

たった今、よく誓っていただいた皆様が阿弥陀如来の功徳につつまれ、ありとあらゆる人を「みな大切な人」と思い、ともに慈悲の思いを向け合う人生を送れますようこれより十遍の南無阿弥陀仏（十念）をお授けします。私が南無阿弥陀仏と唱えるごとに、南無阿弥陀仏と復唱してください。

（授与十念）

阿弥陀様は皆さまをきっと応援してくださいます。

# 転座

# 開経偈

# 誦経

# 御回願　（奉酬 西方願王阿弥陀如来 成等正覚 広大慈恩）

# 回向文　（本誓偈）

# 十念

# 摂益文

# 念仏一会

# 別回向

# 総回向偈

# 十念

# 総願偈

# 三唱礼

# 送仏偈

# 十念